

精密工学会賞 第2回 (2006年度)

受賞者業績紹介

受賞者： 中川 威雄 氏

中川威雄先生は、東京大学在職中、プレス加工、粉末冶金、研削加工、切削加工、金型、ラピッドプロットタイピングなどの広い分野で独創的な加工技術を生み出し、30以上の研究成果を実用化に導いた研究開発の第1人者である。

特に、「びびり振動切削による金属短繊維の製造技術の開発」に対して大河内記念技術賞、「通気性セラミック型」の開発に対して井上春成賞（科学技術振興事業団）、「鋳鉄ボンド砥石による難加工材料の高効率精密研削法の開発」に対して科学技術庁長官賞、そして「鋳鉄ボンド砥石による電解インプロセスドレッシング(ELID)鏡面研削法の開発」に対して2度目の大河内記念技術賞が授与されている。その他、精密打抜き加工、レーザ切断薄板積層金型、高速ミリング技術の開発など、現場のニーズと自らのシーズをマッチングさせ、産学連携を強力に推進した成果が数多くあり、精密工学会を始め多くの学協会から技術賞、論文賞、功績賞などを受賞している。

さらに、定年退官後は、3つのベンチャー企業を設立し、超精密工作機械、超精密レンズ金型、積層金型などの開発、製造販売を行う会社の経営者として活躍している。その技術はいずれも大学での経験に培われ、イノベーションをもたらす技術ばかりであり、今でも現役の技術者として我が国の精密加工分野の発展に大きく貢献している。また、学協会活動では、プリント回路学会、プラスチック成形加工学会、型技術協会の設立に関与し、その会長を務めた。また、各省庁、財団の専門委員、理事、審査委員等を務め、我が国の産業技術開発の方向性を定める重要な役割を果たしている。そして、自らの経験を活かし、技術開発の啓蒙活動を積極的に行い、産官学連携やベンチャー企業の育成を応援している。

1967年東京大学大学院博士後期課程修了

同年 理化学研究所研究員

1970年東京大学生産技術研究所助教授

1979年 同大学教授

1985年理化学研究所主任研究員

1999年東京大学、理化学研究所定年退官

同年 ティームズ研究所設立

2000年ファインテック株式会社設立代表取締役社長

2001年株式会社積層金型研究所設立取締役会長